

令和元年八月一日発行（毎月一回）
書象 第六十七巻 第八号 通巻七六五号

書象



日本書道芸術協会
SHO JAPAN
設立1951年
代表理事 山本 善三郎
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-5561-1111
FAX 03-5561-1112
Eメール sho@sho-japan.org



日本書道芸術協会

2019-8

巻頭言

古典学習は常に継続を

副事務局長 柳澤玄嶽

書を学ぶ規範として古典があります。それは三千年もの悠久の時の流れの中で、多くの人々の手本として生き続け、現在の私たちに引き継がれています。

私自身、未熟ながらも書作活動を始めて約五十年が過ぎました。つつい個性むき出しの自分勝手な方向に進んでしまい、迷いの連続で現在に至っています。そんな時、古典学習が幾度となく私に示唆を与えてくれました。

臨書は、筆を通した故人との一对一の対峙です。文字を通した会話のようでもあります。一文字また一文字と臨書を重ねる中で、故人との一体感を持ち、特徴或いは性格までも共有することすらあります。また、時を経て同じ古典に向かう時、それまでとは違った景色を見ることもあります。それも、多彩な貌をもった古典の奥深さゆえだからでしょう。そして、書道で最も大切な客観的な観察眼が鍛えられていくのです。

信山先生は、書においては常に整齊の美を説かれ、その実践に徹してこられました。唐以前の古典に徹して、特に張猛龍碑、九成宮醴泉銘、また王羲之や顔真卿の書を中心に写実的臨書による反復練習の重要性を説かれていました。私もこの実践者の一人です。とはいっても、実力は遅々として身につきません。だからこそ、一画でも成功した時のよろこびは一入です。

現代日本書法集成「上條信山書法」の写実的臨書例



臨 九成宮醴泉銘



臨 張猛龍碑

古典は、それぞれが内在する造形美を持っています。それを発見し自分のものにしたいと望むとき、一筆でもいいから書いてみることで。最初は、見様見真似で良いと思います。三日坊主でなく継続することが大切です。それが後に、血となり肉となつて還元され、自分の書風を身につけることに繋がるのではないのでしょうか。



酒を把^とって良友に對す

8月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

行書臨書規定【臨規】

(師範・準師範・段位)

集王聖教序

上條信山先生書



(乃至) 意識界(なく)、無明なく

8月20日必着
出品券を貼付

・腕を大きく動かし、のびやかに仕上げる。

識：言べんの右側にやや空間がある。

界：最後の右払いの位置に気をつけて。

無：横画の平行を心がけたい。

明：扁より旁を少し大きくして、線の連続性を意識して書く。



・筆順と文字の中心に注意し、おろらかな運筆を心掛ける。

盡：横画の方向と長さ
に注意して書く。下部の皿をやや右によせる。

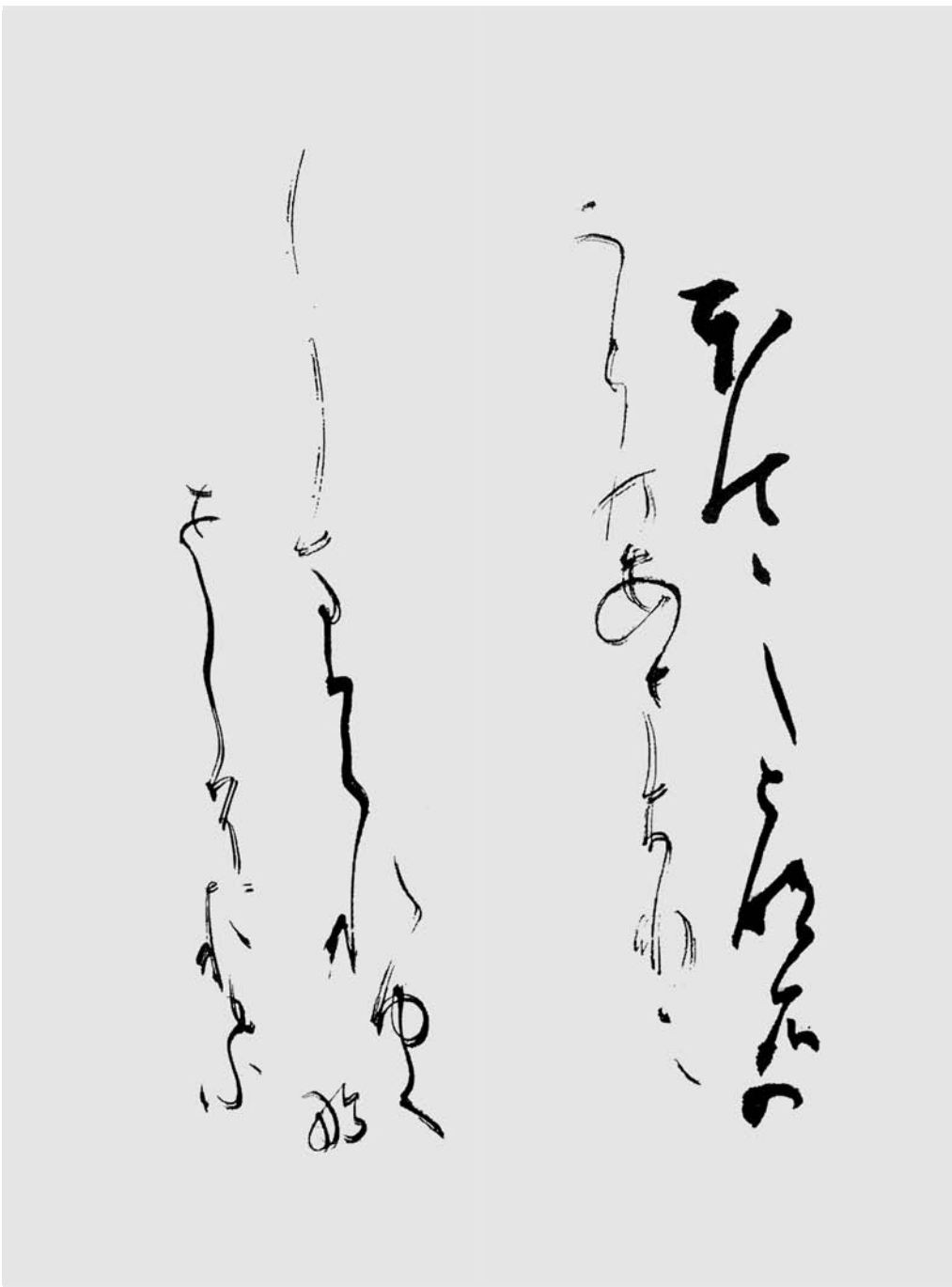


無：文字中の間隔の広さを意識し、空間の美しさを見せる。



仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條 信山 先生 書



ほ(本)の(能)ぼの(く)と明石のうらの(能)あさぎ(支)り(利)に(二)しま(万)か(可)くれゆく船をしぞ(曾)お(於)もふ
(新古今和歌集)

8月20日必着
出品券を貼付

・大きく腕を運び、スピード感のあるのびやかな線で書きたい。

・中心部の空間の広さをいかしたい。

・墨色の変化をつけ、渴筆をいかす。

「ほ(本)の(能)」

本

「明石」

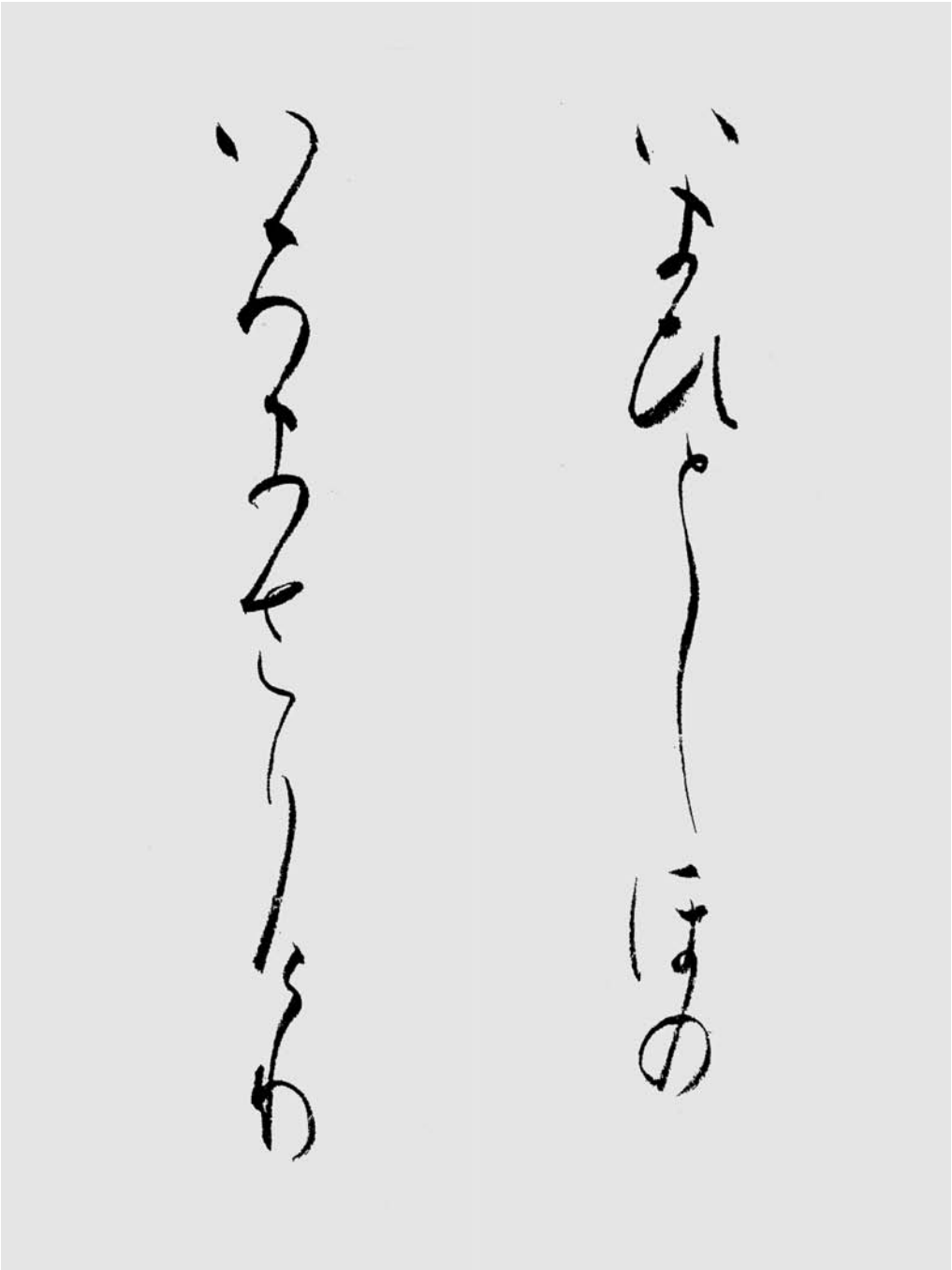
明石

「船」

船

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



いまひとしほの
いろまさりけ(介)り(利)

- 複数文字の連綿では方向転換する箇所(○印)で一呼吸おくと書きやすい。

- リズムよく自然な運筆となるよう、くり返し練習を心掛ける。

「ほの」



「いろ」



「け(介)り(利)」



拝啓 謹呈 前略 冠省
 敬具 敬白 草々 御祝
 健勝 清祥 清栄 隆盛
 繁栄 活躍 先生 様殿

支那

氏名

・小筆の穂先を利かせる。

・あまり大きくならないように注意し、バランスのとれた文字にする。

・行書で軽くさらっと書くよう心掛ける。

・にじみの少ない半紙を使った方が書きやすい。

拝啓 謹呈 前略 冠省 敬具 敬白 草々 御祝
 健勝 清祥 清栄 隆盛 繁栄 活躍 先生 様殿

8月20日必着 出品券を貼付

入選作のみ発表します

漢字条幅規定【条規】

田中節山先生書

段級位を明記のこと



竹邊(辺) 暑を知らず

条幅随意【条随】

中村巍山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



荷風香気ヲ送り竹露清響ヲ滴ラシム(孟浩然詩句)

- ・ 字数が少ないので太めの線でまとめる。
- ・ 潤濁の工夫をされたい。

忘於祭
忘於場

中学一年規定 【学毛】

小淵石峯先生書

夏及休
日 記 子

中学二・三年規定 【学毛】

内藤望山先生書

花の音

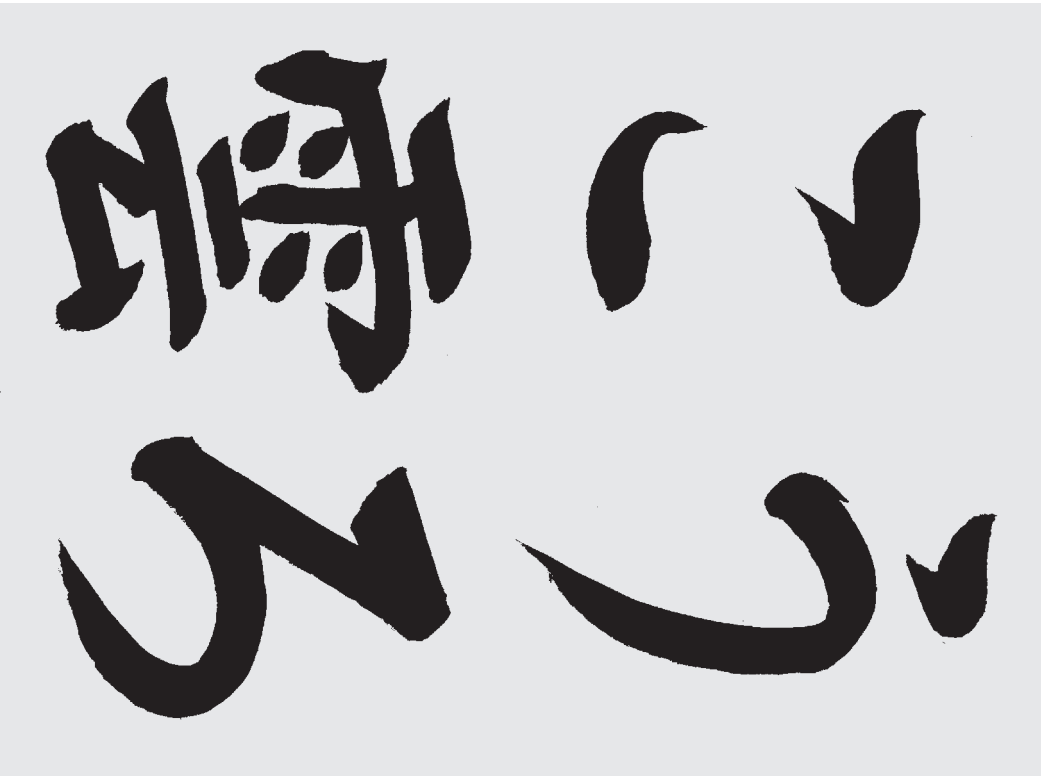
小学五年規定 【学毛】

中村巍山先生書

平和朝

小学六年規定 【学毛】

久保妍山先生書



小学三年規定 【学毛】

高瀬霞山先生書



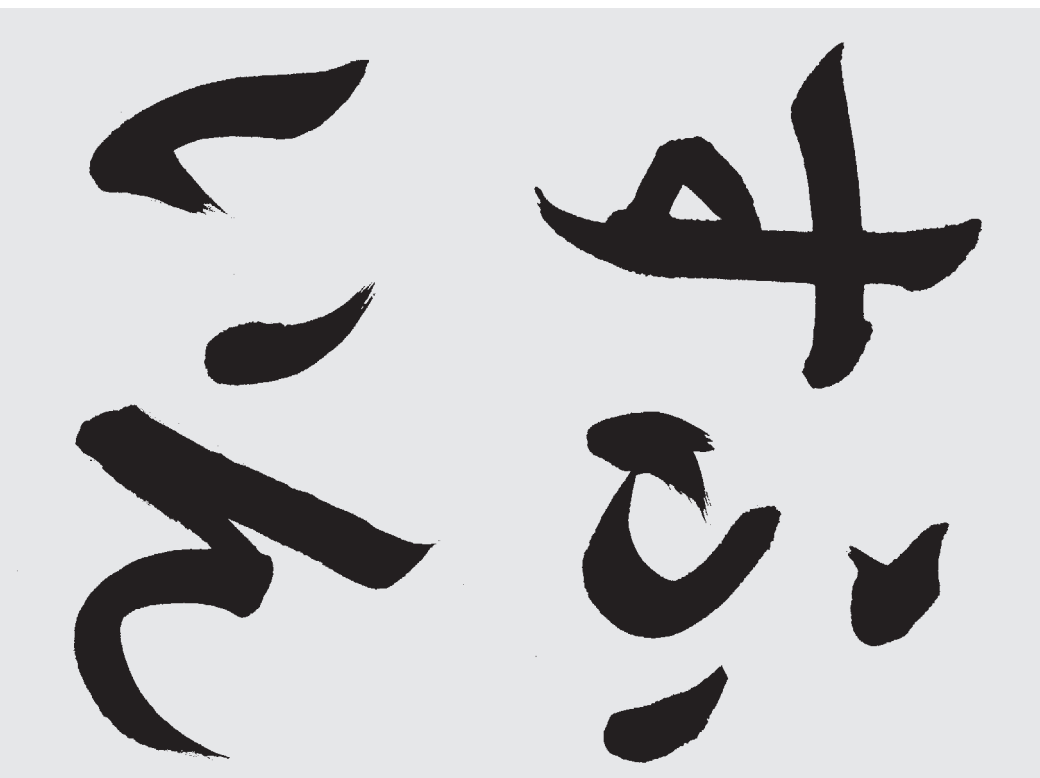
小学四年規定 【学毛】

大島皎山先生書



小学一年規定 【学毛】

宮本耕成先生書



小学二年規定 【学毛】

芦川臨泉先生書

硬筆規定

【一般規定】「一硬」(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生書

稲をたずさえ宝石を求めて(氏)沖繩づたいに日本列島に渡って来る民族が日本人の祖先であり開拓者である。

稲をたずさえ宝石を求めて沖繩づたいに日本列島に渡って来る民族が日本人の祖先であり開拓者である。

【一般規定】「一硬」(級位)

藤岡月華先生書

爽やかという言葉は、一年中使われている秋の季語である。高温多湿な夏が終り空は高く澄む。

中学規定【学硬】

山口啓山先生書

「一期一会」は禅語で、出会った時が別れの始まりを意味します。今後の巡り合いを大切に。氏名

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小一・二年学	中	小三・四年学	南
小五・六年学	成長	中学	転機

手本解説

・基本「把」「対」「良」「友」は左図参照。

把 対 良 友

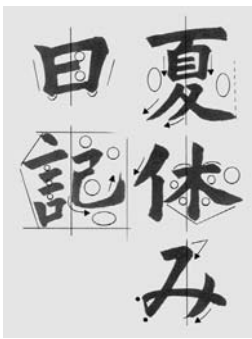
・硬筆一般規定(師範・準師範・段位)「稲」「繩」「民」「祖先」「開」は左図参照。

稲 繩 民 祖先 開

・条幅随意「荷」「氣」「露」「清」は左図参照。

荷 氣 露 清

学生部規定



中学二・三年

「夏」は左払いの方向に注意する。「休」の木は横画の中央に縦画を書く。「み」の結びは三角形を意識する。「日」の縦画は少し内側に。「記」の二画目は長く、最後の曲がりのはねの上部はあげる。



中学一年

「お」は二画目の払いから点への筆脈を自然に。「祭」は左右の払いを広げ、示をバランスよく収める。「広」のムは中心より右側に寄せる。「場」の偏は小さく、旁の払いの角度に注意する。

小学五・六年規定【学硬】

柳澤玄嶽先生書

気象学者のウェゲナーは海
岸線のなぞに気づき大陸移
動説を唱えた。

名前

支部 年

級段

小学三・四年規定【学硬】

蕪木珠紅先生書

夕方トランペットの音
色がどこからか聞こえ
てきました。

名前

支部 年

級段

小学一・二年規定【学硬】

寺尾碩雲先生書

り	モ	おい
ま	口	し
した	コ	そ
。	シ	う
なまえ	が	な
支部	み	ト
年	の	ウ
きゆう		

※出品券を貼付
して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用の
こと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさを下で18 cmよこ7 cm 小一・二課題↓2.1 cmのマス目
の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1 cm巾の罫線を引く。



小学六年

「平」は横画の長さに気をつける。「和」は一画目の角度と口の位置、大きさに注意する。「な」は二画目の長さで角度に留意し、「朝」は横画を右上がりて統一させ、傍の上部はあける。



小学四年

「海」の二画目の位置に注意し、傍の斜線は角度を統一する。「水」は点画の方向に注意して書く。「よ」の最後の結びは横広に。「く」は中心より右側から書き始め、中央ではっきりと折る。



小学二年

「ふ」の概形は正三角形。二画目を曲げる角度に注意する。「ん」は三角形の概形を意識し下部を揃える。「す」の二画目は中心より下で。「い」は画の丸みと角度に気をつける。



小学五年

「花」は草かんむりと化をバランスよく書く。「火」は左右の払いを伸びやかに書き、最大幅にする。「の」は印で筆先を整えながらゆったりと筆を運ぶ。「音」は五画目を長くしてバランスをとる。



小学三年

「う」は縦長の字形を意識し、払いが早く曲げすぎない。「ろ」のまるみは手首ではなく腕全体で書く。「こ」は二画の長さをほぼ同じに。「雲」は雨かんむりの幅に対して云を小さく扁平に。



小学一年

「あ」の二画目はなるべくようにして、中心に書く。三画目は横広に大回りする。「さ」の一画目は横画を二等分し、二・三画目は角度と筆脈に注意する。

古典研究シリーズ ⑬④ 【古典】

曹そう全ぜん碑ひ

後漢・中平二年（一八五年）

今月のテーマ

写実的臨書

中字（六字）



爲治中別駕。紀綱萬里。朱紫不謬。出典諸郡。彈枉糾邪。貪暴洗心。同僚服

書き方

- ① 文字数は六字。左記の中より六文字選んで書いて下さい。
- ② 落款を入れて下さい。
- ③ 作品の表左下に、支部名と氏名、又は号を鉛筆で記入して下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。（編集部）

ポイント

- ・ 横画の水平・平行・等分割を意識して書く。
- ・ 波磔をのびのびと払う。

参考手本

上條信山書法（尚学図書）より



虎井曉鐘先生を偲ぶ

去る四月十五日、本会副理事長虎井曉鐘先生が急逝されました。書象展の最終選考会にはお元気でいらっしやっした先生の訃報に、ただただ驚くばかりでした。

六月二日、長野県上田市のザ・グランドティアラ上田高砂殿の「虎井曉鐘先生お別れ会」には、多くの方々がお別れに訪れました。お別れの会の発起人である成沢臨舟先生のご挨拶、本会からは田中節山会長、友人代表として樋口玄山先生がお別れの言葉を捧げました。

ご焼香の後は、虎井先生のお元気な近影、思い出の写真、作品に囲まれた会場で、「虎井曉鐘の書と人」のビデオを見ながら在りし日を偲び、思い出を語りあいました。あらためて、ご冥福をお祈り申し上げます。

(編集部)



田中節山会長のお別れの言葉



成沢臨舟先生のご挨拶



虎井先生の作品の間には
上條先生を描いたデッサンも



ビデオ放映「虎井曉鐘の書と人」

師弟愛

虎井さんは、上條信山先生の書に魅了されて会社勤めを辞し、信山先生に入門された。師の下で信山バリの追求に徹し、その研鑽ぶりは門人の中でも際立っていた。純粹な信山バリは高く評価され、書道界での活躍は著しかった。そんな虎井さんは信山先生にとって、かわい

い愛弟子であったことは間違いない。

平成二十一年に虎井さんは、信山先生が書かれた「椰子の実」の歌碑を建立された。小諸懐古園の中にある島崎藤村記念館の前で除幕式が行なわれた。先生の奥様とお子様三名がご参列、その中央には信山先生のご遺影がありました。上條家の皆様にとって感動の式典でした。

虎井さんは師への恩返しとして立派な仕事をされたと思う。懐古園の中の信山先生の歌碑は、虎井さんの報恩の碑としても後世に伝えられることになったと思っている。黄泉においては信山先生、虎井さんの師弟愛は永遠に続いて行くことでしょう。

(理事長 市澤静山)

会社勤めをしていた父が一念発起し、書道へと踏み出したのは二十四歳の時でした。それから五十年、書を愛し、師風である信山バリに全力で打ち込んでまいりました。

師風の継承と発展を終生の志とし、それは歳を重ねるごとに純粹さを増していくように感じられました。特に近年発表した多くの大字作品には父の志が強く現れていました。

私生活においては、いつも家族を気にかけている優しい父親でした。幼少の頃、お前は宝物だと言って抱きしめてくれたことが印象的です。そして孫が生まれてからは幸せの絶頂でした。四人の孫を等しく可愛がり、たくさんの愛情を注いでいました。愛する孫達の成長する姿をいつまでも見守りたかったことでしょう。

素晴らしい父親に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えて、心から見送りたいと思います。

末筆になりましたが、ご厚情を賜りました皆様へこの場を借りて深く感謝申し上げます。皆様との良きご縁は父の宝でした。略儀ながら書状をもちまして謹んでお礼を申し上げます。



喪主の虎井信一様

令和元年六月二日
喪主 虎井信一

千
 千邛
 震
 風
 對
 細
 鳥
 園
 淺
 歌
 絕
 見
 水
 映
 幾
 冷
 起
 浪
 卷
 深
 驚
 社
 不
 此
 華
 稻
 區
 煙
 斜
 低
 輕
 浮
 雀
 鳥
 聲
 沙
 響
 于
 車



山本 爽節

玉階生白露
 夜久侵羅襪
 印下小階
 簾
 脫
 曉
 生
 秋
 月
 裏
 陽
 行
 樂
 歌
 舞
 白
 銅
 鞮
 江
 城
 回
 綠
 花
 月
 使
 人
 送
 公
 醉
 油
 村
 醕
 耐
 衰
 陽
 小
 頭
 上
 白
 接
 羅
 倒
 着
 還
 騎
 馬
 岷
 山
 涼
 漢
 江
 水
 綠
 沙
 竹
 雪
 上
 有
 隕
 淚
 碑
 看
 首
 久
 磨
 滅
 華
 運

塔勢如頤出孤高
 聳天宮
 登然出世
 界
 確
 道
 經
 虛
 空
 突
 兀
 壓
 神
 州
 呼
 嘯
 如
 鬼
 三
 四
 角
 礙
 白
 日
 七
 層
 摩
 蒼
 穹
 下
 窺
 指
 高
 鳥
 俯
 聽
 聞
 驚
 風
 連
 山
 若
 沒
 濤
 奔
 走
 似
 朝
 東
 青
 松
 大
 馳
 道
 官
 觀
 何
 玲
 聽
 秋色
 送
 西
 來
 蒼
 然
 滿
 關
 中
 五
 陵
 北
 原
 上
 萬
 古
 青
 濤
 淨
 理
 了
 可
 惜
 勝
 因
 風
 所
 宗
 誓
 將
 挂
 冠
 去
 寬
 道
 資
 無
 窮
 春
 桃

浩劫因王造
 平夏訪古遊
 絲雲
 蕭史駐
 文字魯
 蒸苗官
 闕通羣
 帝乾坤
 列十
 洲人傳
 有筆
 宦時
 過北山
 頭
 天意

浩蕩清江水
 依微綠對風
 解維春
 雨
 外弭棹夕
 陽中江
 草生新
 徑叢
 花點
 舊業詩
 翁不
 愁思
 逸興
 杳何
 窮
 秀月

子房未電
 嘴破產
 不為家
 滄海
 得壯士
 推素博
 浪
 沙
 報
 韓
 雖
 不
 成
 王
 地
 皆
 震
 動
 潛
 匿
 避
 小
 邛
 豈
 曰
 非
 智
 勇
 我
 來
 北
 橋
 上
 懷
 古
 欽
 英
 及
 唯
 見
 碧
 流
 水
 會
 無
 黃石公
 嘆
 息
 此
 人
 云
 蕭
 條
 徐
 泗
 空
 李
 太
 日
 裕
 杏
 靜



星野 華運



中村 春桃



長島 天意



内藤 秀月



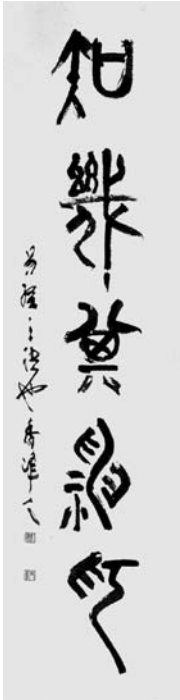
鈴木 杏靜

第47回日本の書展

〈東京展一部紹介〉

会期 令和元年6月13日(木)～23日(日)
会場 国立新美術館(港区六本木)

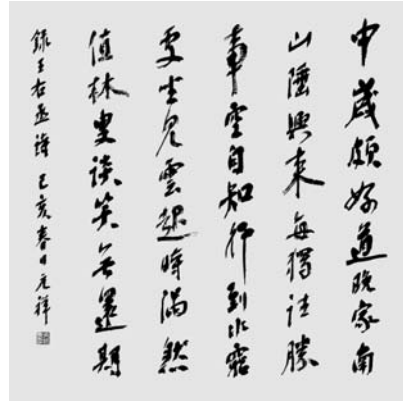
秀拔選



大場 香峰



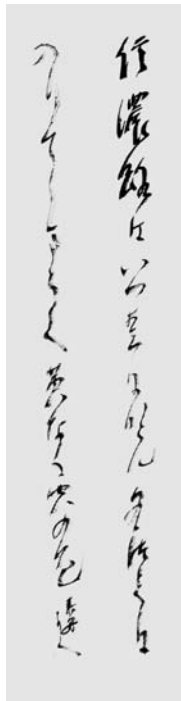
漆畑 扇花



余語 元祥



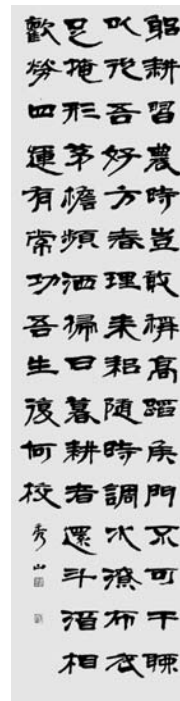
中内 真意



坪田 泰舟



関澤 劔山



小島 秀山



岡本 素雪



長田 詠李

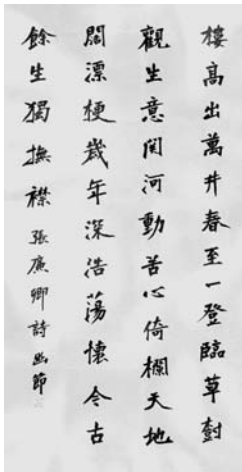


中堤 春里

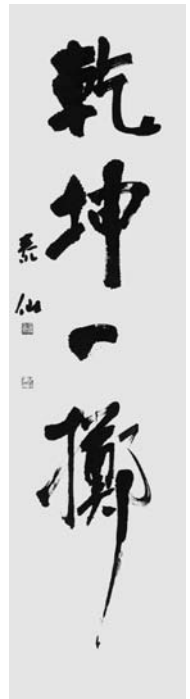


平川 華凜

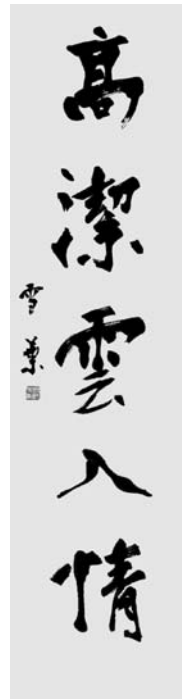
〈関西展一部紹介〉



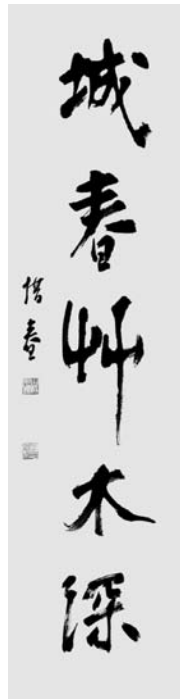
武原 幽節



三沢 泰仙

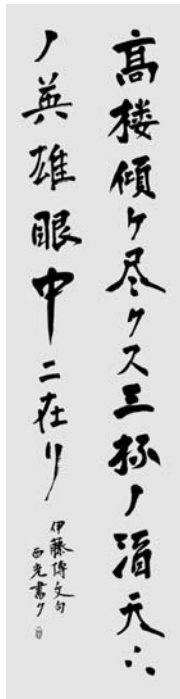


柳澤 雪葉



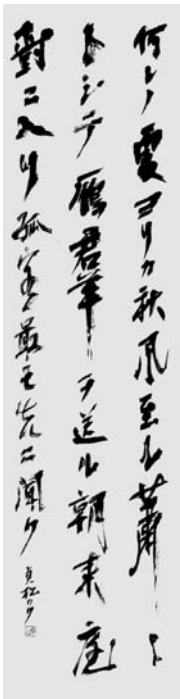
山崎 惜春

〈中部展一部紹介〉



伊藤 西光

〈九州展一部紹介〉



小柳 貞松

師生四代

書象会作品招待展(武漢)

—張裕釗書法文化博物館完成祝賀会—

上條信山先生が、師である宮島詠士先生と張廉卿先生のあついで師弟の情誼に心打たれ、その美しい師生愛を中国の河北省保定市(蓮池書院所在地)と湖北省鄂州市(張廉卿故里)の両市に師生顕彰記念碑を建てられています。このたび鄂州市の張裕釗書法文化博物館が新しく開館するということで、師生四代ともいえる書象会書法作品(24点)の招待展覧が開催されました。

〈書象会代表団行程表〉 3泊4日

月日	移動	行動日程	宿泊
5月28日 (火)	成田発 武漢着	<ul style="list-style-type: none"> 17時、成田空港第1ターミナル集合。 夜、武漢に到着しホテルへ。 	武漢
5月29日 (水)	鄂州	<ul style="list-style-type: none"> 張廉卿文化園を見学。 書象会作品招待展、張廉卿流派回帰展を参観。 張廉卿公墓、記念碑、記念館、鄂州博物館を見学。 	武漢
5月30日 (木)	武漢	<ul style="list-style-type: none"> 湖北省博物館を見学。 黄鹤楼長江を遠望。 夜は張廉卿子孫のご家族と夕食会。 	武漢
5月31日 (金)	武漢発 成田着	<ul style="list-style-type: none"> 朝食後、武漢空港へ。 武漢発成田行全日空直行便で帰国の途につく。 	

張廉卿の故里を訪ねて

魚住 卿山

湖北省鄂州市くわくしゅうという聞き慣れない方が多いことかと思いますが、鄂州は武漢市に臨し、戦国時代に楚そに属し、三国時代になると呉の首府であったことのある湖北省の都市でした。東晋には若き日の王羲之がこの地で庾亮の参軍(部隊長)を務めました。現在も湖北省の車のナンバーは、頭に「鄂」字がつけます。「鄂」は湖北の代名詞なのです。のち、鄂州は別に武昌ぶしやうとも呼ばれるようになりました。書象会書法の祖である張廉卿(諱は裕釗)は、この鄂州市の梁子湖畔、竜塘村りゅうたうそんを出生の地とし、もっぱら武昌先生と敬称されていました。これは、清朝末期の当時、「武昌」といえば張廉卿、「張廉卿」といえば武昌」との理解が、世にいか浸透していたかをものがたるものです。鄂州市には、小高い丘の斜面を利した景勝地である西山に張裕釗墓(中国では諱を使用)、それを麓から飾る張裕釗陵園、また前掲の竜塘村に張裕釗文化園があります。張裕釗墓は、上條信山先生が張裕釗の葬られる張家墩が文化大革命の際に破壊されたことを傷んで再興し、「張裕釗先生之墓」の題字を自ら揮毫されたものであり、陵園においても広い庭園に桜を植樹されました。しかも、陵園をめぐる回廊の壁面には、書象会より選抜された五十名の全紙作品がずらりと石刻となつて陳列されているのです。



田中節山先生揮毫による張裕釗陵園入口



張廉卿公墓の前で

一方の文化園は、村民から寄せられた張募金により、二〇一二年に完成された張廉卿書法の殿堂です。張裕釗の作品(すべて原寸大の複製による)のほか、歴史資料、文献

資料が三層造りの古風な建築の中に、所狭しと陳列されています。

本年度五月二十九日、書象会は内藤望山先生を団長とし、田中節山先生、市澤静山先生ほか書象会会員約二十名に、上條先生の御長女の唐澤かづ子様、次男の上條信之様が加わり、二十年ぶりに鄂州市を公式訪問しました。鄂州市では張裕釗文化園前広場で、人民政府主催により盛大な歓迎式典が催され、それにあたって書象会から上條先生の玉作の他、幹部作品二十点、また拓本資料、書籍資料などが寄贈されました。

続いて西山の張裕釗墓と陵園を参拝。手入れがいき届き、樹々が成長して生い茂る中、一行は二十年の歳月の経過に感慨を深めました。翌三十日には、武漢市内の湖北省博物館別室において、館蔵の張裕釗遺墨の数々を、一時間半にわたって特別拝観をさせていただきました。



田中節山先生の席上揮毫



団長、内藤望山先生の挨拶



揮毫した碑の前で、山口啓山先生



市澤静山先生の席上揮毫



張廉卿子孫のご家族と夕食会

書象会の書の源流に感激

師上條信山先生の書のルーツを巡る旅は田中先生、市澤先生、内藤先生、魚住先生の偉大な功績あつての催しであると痛感した四日間でありました。張廉卿陵園では、多くの中国メディアの中で贈呈式が執り行われ、先生方の貴重な揮毫を間近で拝見できました。博物館の特別室で拝観した張廉卿先生肉筆は、我が会に脈々と続く書の源流そのものでした。先生方と共に拝観させていただきましたのは、何たる贅沢なことでしょう。

張家の歓待の宴は、上條家、先生方への深い愛に満ち、両家、先生方との長い長い歴史を感じさせるものでした。参加させていただきありがとうございました。再訪の機会を楽しみにしております。
(鈴木花仙記)

心に残る素晴らしい旅

中国の書にふれるという軽い気持ちで参加した今回の書象会の旅は、私が思いも及ばない内容の濃い、信山先生の功績を称える旅でした。張廉卿陵園では、松本市美術館の信山記念展示室で見た映像が現実となり、何か違う世界にいるように時間が過ぎていきました。

田中節山先生をはじめ書象会の先生方が信山先生の遺志を引き継ぎ、中国にその功績が残されている素晴らしい光景を目の当たりにすることができました。湖北省博物館で驚いたことには、特別室に案内され、張裕釗の真筆を目の前にして鳥肌が立つ思いでした。また、黄鶴楼に行った時、ここで書象展が開催されると聞き、びっくりしました。

最終日には、張裕釗氏の子孫の方との夕食会が行われました。それはそれは心に残るステキな時間でした。日中友好の架け橋となり、書象会のさらなる発展を期待しています。そして、この書象会に所属できたことを誇りに思いました。
(神山禮光記)

令和元年度春季師範特待生昇格試験合格者

Table listing names and titles of graduates, organized into columns and rows. Includes categories like 師範, 準師範, and 特待生. The table contains multiple columns of names and titles, such as 聖, 宮下, 美羽, 葉月, etc.

特待生

小・中学生準八段に達した者は「特待生試験」合格により八段特待生となる。「8級下」から始め、四十二階級を登りつめた栄誉を讃え、賞状ならびに副賞として墨と楯（左写真）を贈るものである。

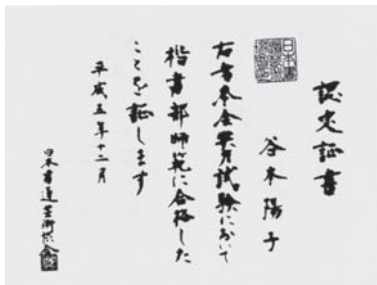
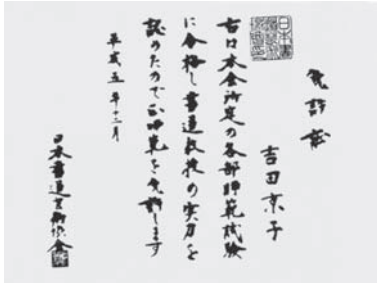


認定証の申込みについて

師範昇格試験において、正師範・師範・準師範に合格し、その認定証を希望される方は、該当各書体の合格年月を記入した申し込み書に費用を添えて書象会本部庶務部までお送り下さい。

尚、お申し込みただいてから認定証の発送までに、若干時間のかかる場合がございます。ご了承下さい。

- 正師範 五体 五〇、〇〇〇円
- 師範 一体に付 五、〇〇〇円
- 準師範 一体に付 四、〇〇〇円



看板の頒布のお知らせ

書塾用に看板を用意しております。ご希望の方は左記の要領でお申込み下さい。

◎資格条件

書象誌において、一体でも師範に合格した方。

◎申請料

三万円（送料・税込み）

◎材質・寸法

檜無垢 A タテ六〇cm×ヨコ一五cm×厚さ二cm

B タテ四五cm×ヨコ一三cm×厚さ二cm

※A・B共に貼り囷入り

◎申請方法

師範合格書体・年月と御希望の寸法A・Bのどちらかを記入して、申請料と共に書象会庶務部まで、現金封筒でお申し込み下さい。

◎お問い合わせ・申請先

☎ 180-0001 武蔵野市吉祥寺北町四一三一六

書象会 庶務部

☎・FAX 〇四二二一五三一九七四三



昇段級試験特集

令和元年度春季昇段級試験合格の秀作と審査評を掲載いたします。
 合格率は、師範68%（受験者二三名）、準師範60%（同二五五名）、持待生54%（同二四五名）でした。
 今回は師範の合格率の高さが際立っています。これまでの努力の成果が大いに実ったといえるでしょう。それに対して準師範の合格率は楷書（51%）、仮名（53%）、硬筆（52%）とやや劣る結果となりました。楷書は用筆法の正確さ、仮名は全体構成の捉え方、硬筆は文字の大小を含めた配列の美しさが合否の決め手となりました。いかに特徴を捉えるかが重要です。
 持待生の合格率は硬筆が68%であったのに対し、毛筆は48%と過半数を下回りました。始筆・送筆・終筆といった、基本的な筆使いの習熟度が合否に表れたようです。今一度基本に立ち返り、秋季に向けて頑張ってください。

師範 皓花 岡田みつる



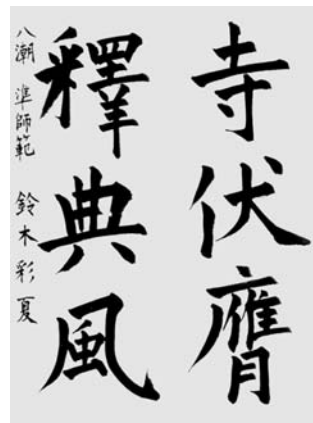
力みのない筆運び、かつ切れ味鋭い線で作品全体をよく引き締めている。余白も生き、明るい作品となった。

師範 宝春 森 尚美



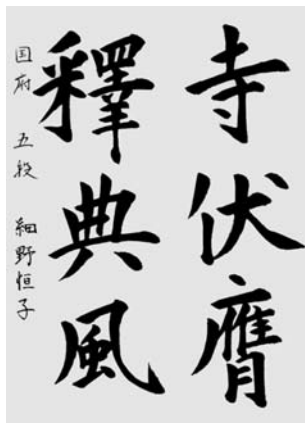
基本に忠実で一点一画のゆるぎない筆の動きが見事である。大きさや形にも優れ、落ち着いた作品となった。

師範 八潮 鈴木 彩夏



切れ味鋭い線が光る。直線的な横画、整った字形は古典的特徴をよく捉えており、緊張感ある作品に仕上がった。

準師範 国府 細野 恒子



含墨豊かであり、みずみずしい線が心地良い作品。安定した運筆で、位置・大きさ・形のとり方も大佳。

準師範 月 上田 尚子



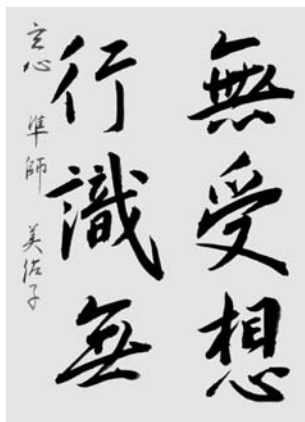
腕がよく動いてスケールの大きな作品に仕上がった。伸び伸びとした線で文字構造も広く、力強さがある。

準師範 奈華 続 旺



基本に忠実な筆遣いで力みなく運筆している。起筆・切筆ともに切れ味よく、伸びやかな線質が魅力的な作品だ。

師範 玄心 井上美佐子



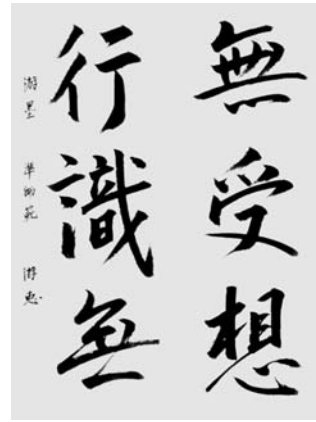
位置、大きさ、形とも完成度の高い秀れた出来ほえとなった。六文字が自然に流れていて気持ちの良い作品である。強さも備えている。

師範 墨洋 青木 千波

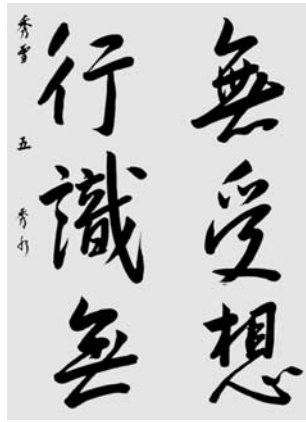


大変鎌度の高い印象を受ける作品である。一画一画丁寧に仕上げ、全体のバランスがとれ、上手く出まわった。落ち着いた良い作品。

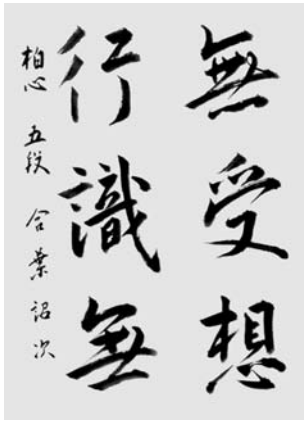
師範 游墨 赤井 游恵



準師範 秀雪 篠田 秀水



準師範 柏心 合葉 詔次



落ち着いた静かな線質で安定感が光っている。穏やかさの中に腕が大きく動いている故の伸びやかさと安定感がある秀作。

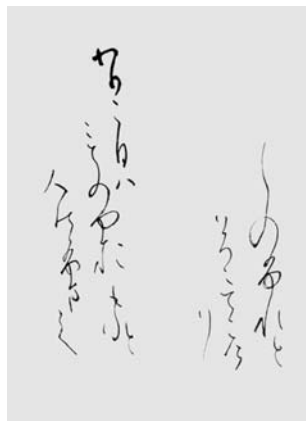
落款には一考を要するものの、伸びやかな線が何よりも魅力的である。造形も懐の広さがあり、明るい作吧となった。

筆がよく動いて躍動感がある。形の良さとともに、筆の弾力を生かした線が冴え、清冽な作品に仕上がった。

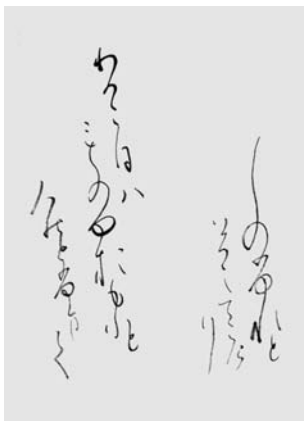
準師範 若竹 柄澤 憧月



師範 笠原 古田 和美



師範 石峯 西嶋 洋一

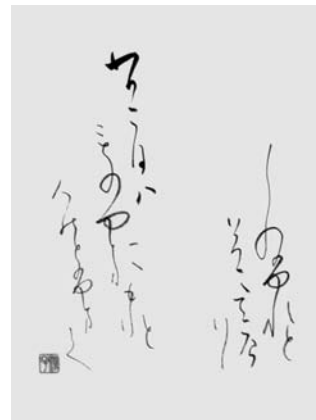


素直でゆったりとした運筆で伸びやかさのある作品。文字構造の広さ、緩急の変化が見られるのは錬成の成果である。

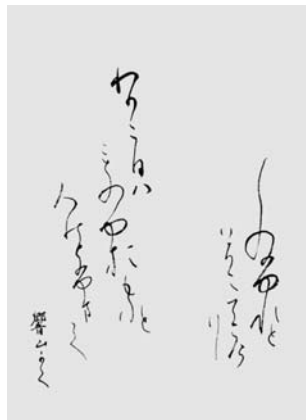
切れのよい伸びやかな線、力みのない書きぶり、流れるような形、とり方も良く、日頃の成果がみられる。

潤渇の変化を意識して余白の美しさの出した作品。まじめな書きぶりに好感がもてる。

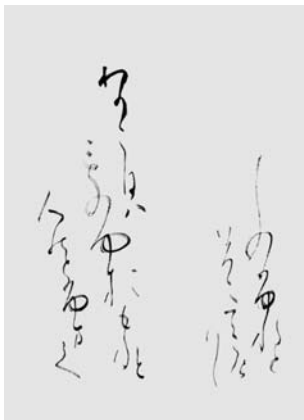
師範 汀松 岡寄 順子



準師範 虹友 滝瀬 響山



準師範 京都 中野 恵



大らかな運筆で力みなく表現した懐が広ゆったりとしたリズムで作品が大きく見える。

遅速緩急の変化をつけた運筆が、様々な線質を表現している。縦への流れ、余白も美しい。

筆の開閉が自由自在に駆使され、リズムのある運筆が心地よい。全体構成も見事で、練度の高さが感じられる。

第44回泰山門書展 併催 春季選抜学生書道展

会期 五月二十五日(土)～二十六日(日)
 会場 塩尻市市民交流センター「えんぱーく」
 主宰 笠原泰山先生



宮島先生、上條先生の御作品の前で



力強い学生部の作品

泰山先生の「令和」作品揮毫を皮切りに、元年幕開け早々多くの来場者をしていただき、第44回展を迎えられましたことは、大変意義深く一同感動の中で開催することができました。

選抜された小中学生五十二点、高校生十八点、一般四十七点、そして宮島詠士先生の御作品(65×130cm)、上條信山先生の御作品を展示しました。宮島詠士先生の作品の前では、多くの来場者が足を止め、じっと見入っている姿が印象的でした。

二日目、学生部の表彰式に出席した生徒や保護者の方々には、泰山先生の細やかな講評が大変好評でした。高校部は、学校の書道部に所属して活躍している生徒が多く、少ない時間の中でも楽しく作品づくりができたように思います。この「作品づくりの楽しさ」を一般部、学生部共に一層深めながら今後も精進して参りたいと思います。有難うございました。

(渡辺泰琴記)

藤森博士の漢字表記にもの申す⑭

書道学博士 藤森大節

漢字の字形に対する意識の相違は、IT機器の発達による影響が大きいと思われまます。日常生活では活字が溢れ、手書きの機会は減少しています。こうした状況から、文字は「書く」から「打つ」ものへと変わり、普段目にする活字体のみが正しい漢字の字形であるかのような誤認が存在します。



「令和」の墨書は実に見事な書きぶりです。書に携わる者として新元号の発表とともに、世間の文字に対する関心の高まりは素直に嬉しく思います。しかし、活字体で書かれた手書きの「令」を見た瞬間、とても複雑な気持ちになりました。なぜならこれによって益々世間に活字体を広めることになるからです。実際、「令和」の発表以後、活字体「令」で書く人が増えたような気がします。その影響力は絶大です。

揮毫者、茂住菁邨氏のインタビュには活字体で書いた理由を「令」の字の最後の二画を真つすく下ろす活字体を選んだのは、誰にでも分かりやすいように書いてほしいとの要請があったためだ。」と説明しています。(https://www.jiji.com/jc/article?k=2019051800139&g=soc)

小学校では筆写体「令」の字体で学習しますから、分かりやすい字形は「令」のはずです。かえって混乱を招いたのではないのでしょうか？活字体を基準に悪弊を取り除く意味でも、世間の注目が集まるこのタイミングで、筆写体「令」を選んで欲しかったと思います。

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

名東支部

中一 辻浦 なつ



小学校の時は姉妹友好都市や、絵の作品が学校代表で選ばれたなど絵も得意。書道は中学生になって、今までとは違うキリッとした線質に変わり、期待大!!

水代支部

小六 青柳 琥 珀



サッカーの選手で運動は抜群です。静かに黙々と書きます。線質がよく県展では金賞を頂き、家では洗濯物を畳む役目で立派です。一層の努力を期待します。

龍文支部

小三 駒ヶ嶺 杏



毎回、学校での出来事を元気に話してくれる杏ちゃん。親切にお友達のお世話もよくしてくれます。書作品は力強さと温かさが調和し、センスが光ります。

右文支部

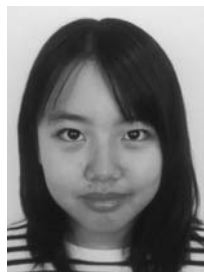
小五 金野 遼太郎



幼児の時から教室に通っている遼太郎君。今は中学受験に向けて勉強を頑張っています。忙しい中、書道も毎週しっかりとお稽古を続けています。

名東支部

中一 谷口 優 凧



私立中学に入学し、チアリーディング部に入学。小学生の時から習っていたダンスを生かして大会出場が楽しみ。書道はセンス良い字を書き特待生も間近!!

龍文支部

中三 古内 うらら



生徒会長として活躍中のうららさん。学業も部活の吹奏楽も充実した中学校生活です。小五で編入した書道もメキメキと頭角を現し今後益々楽しみです。

八潮支部

小六 木 曾 悠 真



とても素直で、しっかり者の悠真君です。書きぞめ展では、いつも候補になってきました。本年は有終の美をかざりたいと今からお稽古に励んでいます。

名東支部

中二 大 西 遼 多



将来の夢はプロ野球選手。身長178cmの遼多君の御両親は元プロスポーツ選手。書道では大きな字で慎重派。最近、力強い字になり特待生へ道もあと一歩!!

虹苑支部

小六 山下 晃太郎



いつも「はい」と気持ちの良い返事を返してくれます。学校では代表委員をし、算数が好き。サッカー、テニス、水泳と頑張り屋さん。成長が楽しみです。

虹苑支部

小六 松下 快 生



明るく元気で文字もしっかり書いています。学校では市展の代表にもなり、社会が得意です。塾、サッカーにと通いながらこれからも頑張ってください。

杉月支部

小五 櫻井 奏 来 絆



兄に続き姉弟も熱心に筆をとる素敵な二人。本部より書象の筆を仲良く頂いた頑張り屋さん。これからも楽しく勉強しましょう!!

房風会支部

中二 榎本 心 美 月



何事にも熱心な美月さんは、テニスとの両立で大変な中、習字も結果を出し、心美さんは早めに来る頑張り屋さんです。成長が楽しみな美人姉妹です。



△漢字条幅▽ 評 二瓶 嶽風

梗 月 切れ味抜群で、爽快な作。

霽 楓 瀟洒な雰囲気、線に冴えあり。

天 遥 伸びやかで、澄みきった線が美しい。

芋 里 甘さが漂う情感あふれる秀作。

壺 桜 手本に忠実に取り組む姿勢がよい。

静 翠 食い込んだ骨力ある線が魅力的。

美 光 健康的で明るく素直な作。

花 瑤 難しい課題を全体感よく仕上げた。

△条幅随意▽ 評 小室 墨汀

湯本香窓 原帖に忠実に基本点画を再現。骨力良。

古川瑋光 潤いを持ちながら切れ味鋭く貫通力有り。

工藤和春 澄み渡る線質で爽快感が漂う。余白美佳。

△通信条幅▽ 評 樋口 玄山

納戸碧雲 重厚で骨力ある線質、確かな腕法が光る。

牧 恵風 等圧、等速、ゆったりとした隸意あり。

村山麗恵 無理のない自然な流れで仕上げている。



基本課題

評 白濱 静苑

林田翠山 手本に忠実で、生き生きと明るい作見事。
 仲島秀峰 捻りのある線と形の美しさが抜群の作品。
 山田英葉 よく特長をとらえ、まじめな作。
 吉田煌扇 紙面にいくい込む線質でまとまった。

研究課題

評 小川 仙草

岡本秋麗 線に減り張りを利かせ、余白が生きている。
 青柳緑水 潤渇の線が冴え、リズム、流れ良い。
 北村照節 スピード感あり、全体の布置的確な作。
 関澤劔山 運筆良く動き、線質の迫力は見事である。

古典課題

評 大澤 梢光

上條恵香 筆力あり、重厚さと動きのある作。
 平林静千 柔軟な線と躍動感があり空間も見事。
 篠塚葉暁 破綻のない丁寧な書きぶりが印象的。
 菅原彰月 落ち着いた線で上品にまとめた。

師範部

△行書▽

評 柳澤 玄嶽

田島涛仙 弾力の効いた線で躍動感に富むリズム。
 小柳貞松 躍動した線、沈着さと凜と冴えを放つ。
 川島映雪 運筆の中に遅速緩急をつけた多様な表現。
 鈴木花仙 筆脈が良く通り墨量充分にして気骨作。
 布下真静 軽快さと重厚さが交錯して魅力的。
 井上雅幸 形体把握がとて上手で構造が正しい。
 松田司峰 筆が自由に動き鋒先が紙面に食い込んだ。
 伊藤暁道 ゆったりとした息遣いが感じられる。



泉澤不苑 しっかりした運筆で無駄な動きの無い作。

荻野明笛 基本に忠実で丁寧な仕上げ。結体確か。

吉澤玲笙 悠々と運筆しながら手本に忠実な作品。

佐藤茜沙 揺るぎ無い精神の込められた運筆、腕法良。

小見汀心 一字一字への把握が行き届き線が柔軟。

桑野小琇 腕の動きが良く筆の開閉も自在。

長江陶華 細やかな配慮が有り清冽を遺憾無く発揮。

林かおる 直線的だが変化に富み緊張感あり。

△仮名▽ 評 二瓶 嶽風

高橋太一 大胆な書きぶりですケールの大きさ佳。

崎山芳葉 思い切りの良い墨継ぎが明るく強い。

石原翠幸 確かな筆遣いで破綻のない線がよい。

倉谷聴月 濃い目の墨ながら伸びやかで安定感佳。

坪田泰舟 どこまでも渴筆の効いた動きある作。

杉本統華 筆の弾力が明るく爽やかに感じさせた。

桑野小琇 墨色の変化が奥行きをみせて格調高い作。

在原ます子 確実着実なまとめ方は手慣れていて見事。

大井沙雪 力みなく自然な筆遣いで上品に仕上げた。

上田悠翠 全体に小振りだが渴筆のきいた明快な作。

荒木佳扇 穏やかな雰囲気心地よく素敵な作。

高平光紗 紙面に食い込む伸々とした線が魅力的。

中三 細貝 詩音 決意	小四 滝沢 愛未 助け合 うけ	小六 川手 駿栄 電車 通り	中二 清水 栄花 手先が 器用
小五 藤嶋 可英 安定	小四 千歩 助け合 うけ	小六 阿部 桜乃 電車 通り	中二 真佳 手先が 器用
小四 富井 智仁 号	小三 楓 系 わて	小五 西澤 凜乃 雨の 水玉	中一 中嶋 彩子 公共 事業
二年 げんせき 天ね 元	三年 北村 颯士 系 わて	小五 奈 良心 希 雨の 水玉	中一 福山 舞依 公共 事業
	小二 小ニ みや山 たくと めつば		
	小ニ 小ニ えのもと 二ニ 小ニ めつば		
	小ニ 小ニ けいげつ 一ねん よしえに 小ニ かに		
	小ニ 小ニ おおうち まな かに		

学 生 部

評 中内 真意

清水栄花 線の太さが効果的。堂々とした作品。
 味本真佳 優れた造形が魅力の作。用筆も素晴らしい。
 中嶋彩子 力強さと細部への心配りを両立できた。
 福山舞依 鋭角的な起筆がキラリと光るすてきな作。
 川手駿栄 線の細太を書き分け雄大な作に仕上げた。
 阿部桜乃 払いの先に至るまで丁寧にかけている。
 西澤凜乃 字が大きく明るく見える。名前もよい。
 奈良心希 太くのびやかに運筆されていて見事。
 滝澤愛未 バランスよく書けた。墨の色が美しい。
 上島千歩 曲線的な表現がとてもよい。名前も上手。
 廣瀬 楓 紙いっぱいに大きく強く書きました。
 北村颯士 墨をたっぷりつけて流れよく書きました。
 宮山拓士 まがるところもきれいでとてもじょうず。
 榎本心美 三つの字ぜんぶを元氣いっぱいに書けた。
 吉江にな 大きくて強そうな「かに」が書きました。
 大内茉奈 とてもきれいでのびやかですばらしい。

半紙 随意

評 江上 玄光

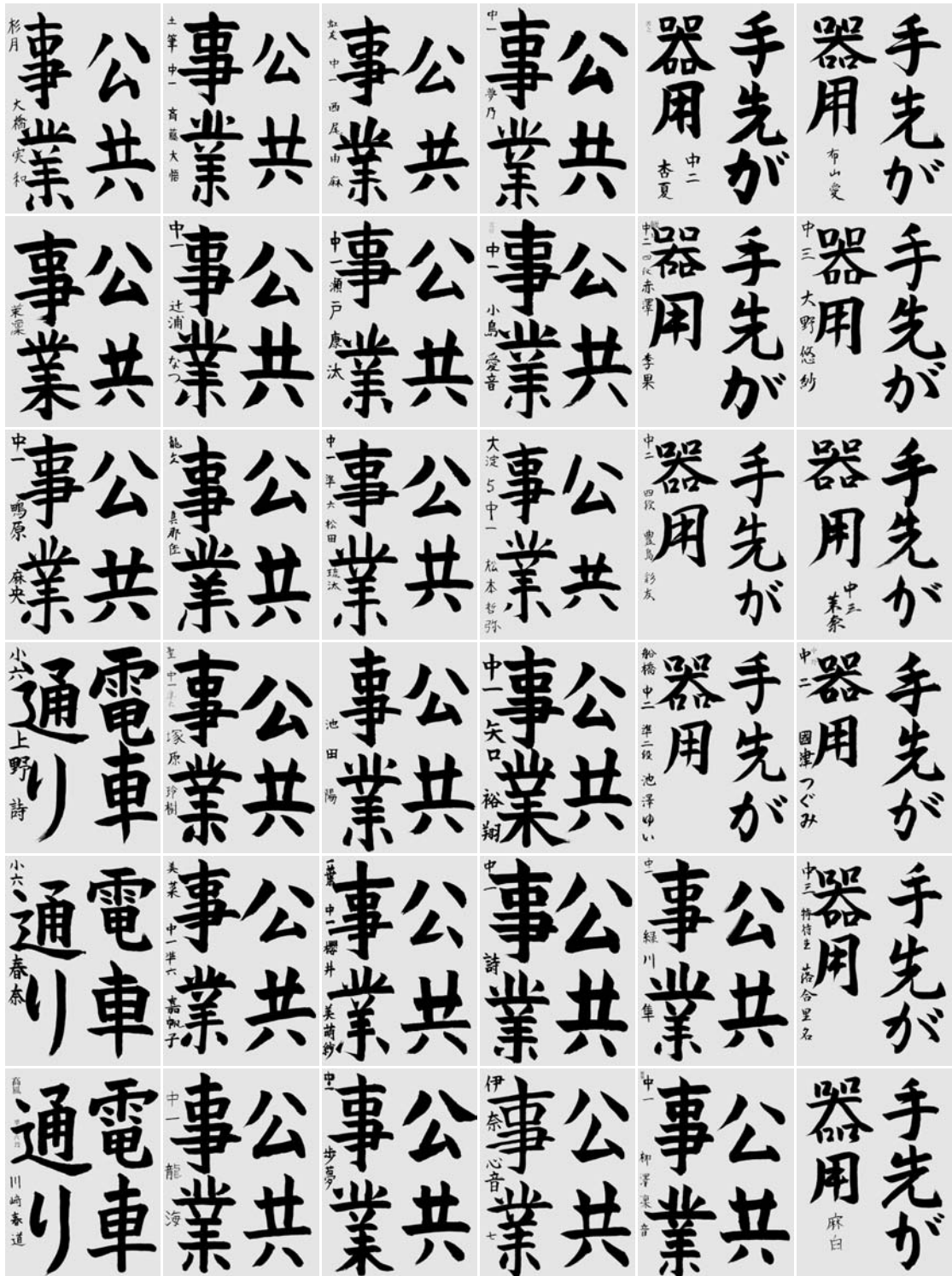
細貝詩音 一点一画をていねいに書いていて見事。
 藤嶋可英 バランスを考え小ぶりにまとめた秀作。
 富井智仁 力強い線で堂々とした作品です。
 源関天章 正しく元氣いっぱいにかけています。

このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

〔行書〕 秀雪 川口水輝子
華雪 櫻谷 華詠
練馬 鈴木 典子
秀雪 井上 夢花
名東 熊切 勝子
玄默 漆谷 勝子
一繪 宗像 勝子
霞墨 小俣 珠惠
練馬 熊谷 利恵子
名東 渡邊 琳
秀雪 中西 美和
光丘 友野 和恵
石峯 唐津由香里
一繪 加藤 杏佳
若宮 北爪むつみ
成城 中村 由美
一路 磯部 浩代
石峯 榎原 文彦
竹華 小林 優菜
杜会 泉水 敬子
静丘 山田佐和子
光丘 湯下 亜未
若竹 松井 佑菜
華雪 松井 佑菜

〔段位〕 美苑 小張 真弓
高風 小林 真志
大象 齊藤 美悠
横二 齊藤 蕙雪
紅竹 下垣美知子
一路 一糸ひで子
八潮 小林 陽子
笠原 小林 由生
〔級位〕 有象 吉田 節城
竹華 染谷 教子
若松 佐藤 真知子
杜会 泉水 敬子

〔假名〕



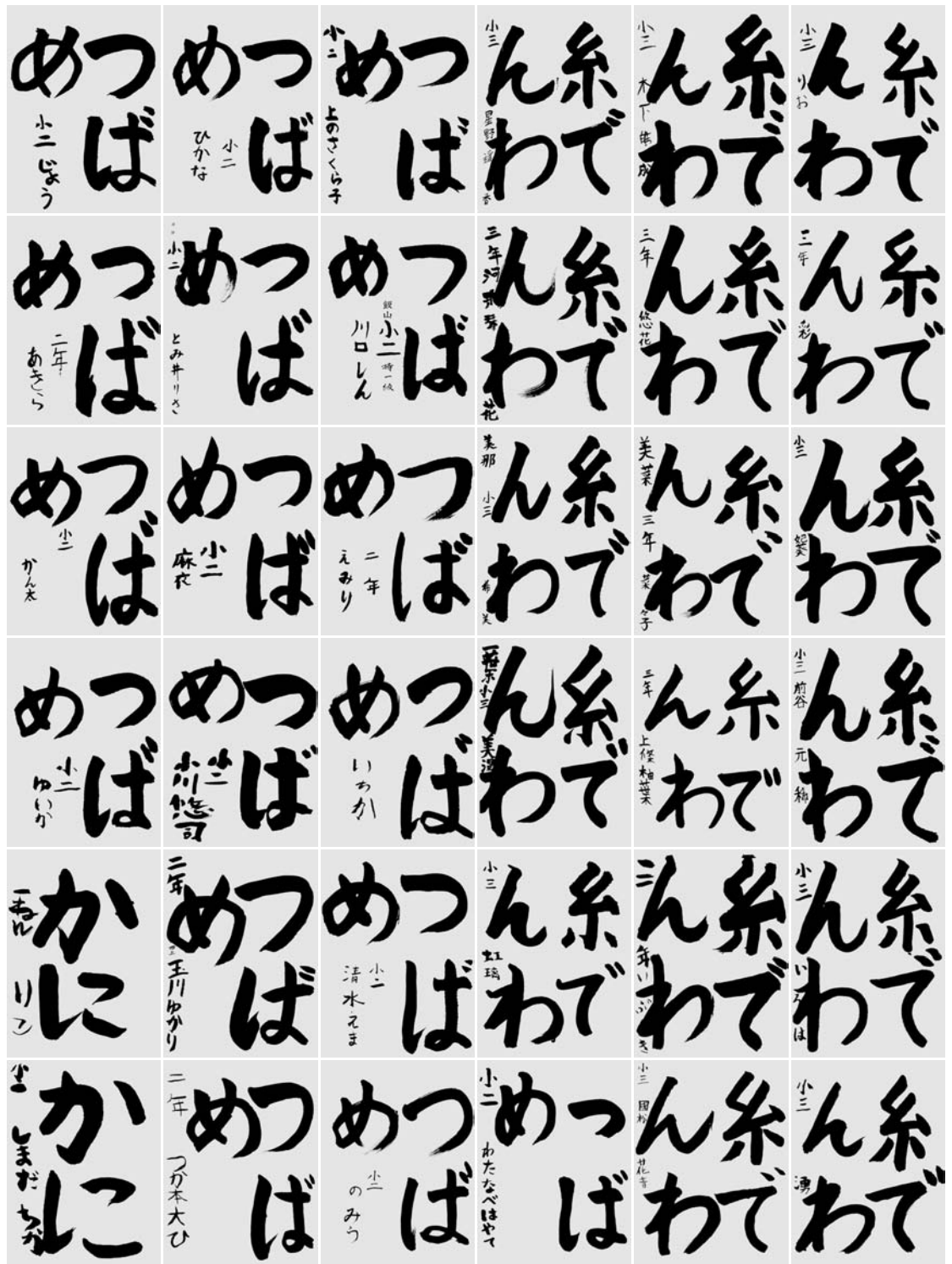
高風	華雪	中央	小六	杉月	秀雪	美菜	聖文	龍文	名東	土筆	光丘	一葉	珠紅	小光	この	虹友	伊奈	一絵	霞墨	大淀	北府	若松	美墨	凜心	〔中一〕	船橋	小光	飯山	書之	成城	名東	中野	りん	有虹	玄黙	〔中二・三〕
川崎	佐々木	上野	春奈	大橋	村田	関根	塚原	溝口	辻浦	齊藤	伊東	櫻井	池田	松戸	瀬戸	西尾	谷口	佐藤	矢口	松本	小島	横野	柳澤	緑川	〔中一〕	池澤	豊島	赤澤	中島	平方	落合	國津	高田	大野	布山	〔中二・三〕
春道	春奈	詩	麻央	実和	龍海	玲樹	真那	真那	なつ	大悟	歩夢	美萌	康汰	瑠汰	由麻	心音	詩	裕翔	裕弥	哲乃	あのん	夢乃	凜音	隼	〔中一〕	ゆい	李友	李夏	杏夏	麻白	里名	つぐみ	菜奈	悠紗	愛	〔中二・三〕

小 五 香里那	水雨の 玉の	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
六年 望月怡幹	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 田中康	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 知 柚季	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
鈴鹿小六 六中 和田 徳花	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 原山瑠梨	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
五年 上野 絢加	水雨の 玉の	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 安村まひな	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 勝岡結菜	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 原田流奈	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 仙台小六 きぬ	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
六年 加奈子	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 平垣 優	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
五年 大 加	水雨の 玉の	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 本間美羽音	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 倫子	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 栗本 実紅	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
六年 加奈子	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 平垣 優	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
杉月 櫻井 絆	水雨の 玉の	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 蒼 茜未	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 本林福雄	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 出口湧大	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 心咲	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 亜由実	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
杉小五 桑原 梓	水雨の 玉の	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小五 関 菜々加	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 琴瑛	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 山本 優衣	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
六年 菊地七海	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 田中 美梨亜	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
五年 小林 じゅん	水雨の 玉の	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小五 藤本 七や	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
大阪 岡本真弥	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 宮田帆乃果	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 三石結菜	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通
小六 雪乃	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通	電車 通

- 青雲 杉原 小林 駿太
 杉月 櫻井 絆
 山愛 久保田大翔
 源創 上野あやか
 華雪 柳内香里那
 城彩 藤本 さや
 霞墨 関 菜々加
 松戸 春田 蒼葉
 凜心 本間美羽音
 北府 安村まりな
 神奈 望月 佑粹
 大阪 岡本 真弥
 玄嶽 塚越 琴瑛
 大田 森 椿姫
 光丘 金子 倫子
 玄樸 勝間 結菜
 竹華 田中 凜
 玄黙 宮田帆乃果
 有虹 山本 優衣
 有穂 出口 湧大
 若葉 栗本 実紅
 練馬 原田 流奈
 中野 畑 柚季
 柏心 三石 結菜
 富貴 菊地 七海
 水代 倉科いささ
 宮台 田村かな子
 仙台 須藤 きぬ
 鈴鹿 和田 悠花
 静翠 田代 雪乃
 サン 田中美梨亜
 秀雪 石塚亜由実
 八潮 平垣 優
 皓花 岩村 凜
 個人 原山 瑠梨

小四 七岸 美空 合助 うけ	四年 小林 愛莉 合助 うけ	小五 勇虎 水雨 玉の	小五 千桜 水雨 玉の	小五 まお 水雨 玉の	小五 高橋 柳那 水雨 玉の
小四 極 合助 うけ	四年 杉本 智和 合助 うけ	小四 璃音 合助 うけ	小五 月立日 水雨 玉の	小五 神谷 芽依 水雨 玉の	小五 麻羽 水雨 玉の
小三 中島 穂佑 ん糸 わで	小四 吉野 麻奈 合助 うけ	小四 小林 茉白 合助 うけ	雅 深緒 水雨 玉の	小五 貴朗 水雨 玉の	五年 小林 恵乃貴 水雨 玉の
あひこ 三雲の ん糸 わで	小四 浅日 花南 合助 うけ	四年 高島 彩月 合助 うけ	真 中屋 敦美 水雨 玉の	小五 桜子 水雨 玉の	五年 宮川 友花 水雨 玉の
三年 あま ん糸 わで	小四 山下 結子 合助 うけ	小四 稲垣 佑衣 合助 うけ	五年 松本 岬希 水雨 玉の	小五 近藤 百湖 水雨 玉の	小五 上母田 侑希 水雨 玉の
三年 山口 奈々 ん糸 わで	小四 理初 梨音 合助 うけ	小四 坂田 史 合助 うけ	大阪 手 沖野 絵麻 水雨 玉の	元啓 水雨 玉の	小五 伊藤 康介 水雨 玉の

- 皓花 朝日 愛心 霞墨 若松 蔵 上尾 虹苑 硯扇 練馬 宝春 湊 杉 秀雪 神奈 霞墨 華雪 一絵 大阪 この 高風 雅 光丘 さわ 玄樸 志摩 竹華 綾華 若竹 月野 茅野 練馬 平成 美苑 みな 照澤
- 山口 岩下 原中島 藤原 山岸 古澤 山下 浅日 吉野 杉本 小林 坂田 稲垣 高島 小林 手島 鈴木 沖野 松本 中屋敷 望月 村社 稲原 永富 近藤 湯澤 内山 神谷 愛甲 伊藤 每田 宮川 小林 植山 高橋
- 奈々 樹葵 雪乃 梗佑 桜 美空 梨音 結子 花南 麻奈 智和 愛莉 史 佑衣 彩月 茱白 璃音 大 手 沖野 絵麻 勇虎 繪麻 岬希 深緒 月音 千桜 元啓 百湖 桜子 貴朗 芽依 まお 康介 友希 友花 勇貴 麻羽 柚那



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 霞墨 | 皓花 | 小一 | 若松 | 秀雪 | 山愛 | 正桂 | 三池 | 芙五 | 練馬 | 月野 | 好野 | 有穂 | 竹華 | 若宮 | 珠紅 | この | 飯山 | 久喜 | 霞墨 | 小二 | 中野 | 一葉 | 美那 | 往郷 | 華雪 | 秀雪 | 山愛 | 湊 | 美菜 | 平成 | 練馬 | 綾華 | 名東 | 玄黙 | 花連 | 光丘 |
| 島田 | 下畑 | 小一 | 小野 | 津呂 | 和山 | 松井 | 塚本 | 玉川 | 小川 | 山崎 | 富井 | 佐山 | 盧山 | 清水 | 依田 | 庄司 | 川口 | 上野 | 渡邊 | 小二 | 金井 | 内川 | 八代 | 河野 | 星野 | 國松 | 加藤 | 上條 | 角田 | 蟹澤 | 木下 | 清水 | 前谷 | 三上 | 篠原 | |
| 知佳 | 梨心 | 小一 | 小野 | 寛太 | 爽空 | 丈陽 | 大陽 | 悠司 | 麻衣 | 理沙 | 陽奏 | 美宇 | 咲磨 | 一花 | 笑理 | 眞 | 桜子 | 颯 | 颯 | 小二 | 虹璃 | 美温 | 希美 | 琴花 | 遥香 | 花音 | 楓 | 楓 | 悠花 | 皓成 | 湧 | 元稀 | 妃葵 | 凜彩 | 凜桜 | |

書の構造に於ける点や線や
面けあり方ハ書として重大な決
め手となるものである。 古坂研
幸彦

夏の訪れを告げるホトトギス。
漢字では、時鳥、不如帰、子規
などが当てられる。 雷豊 中一
藤崎みのり

夏の訪れを告げるホトトギス。
漢字では、時鳥、不如帰、子規
などが当てられる。 龍ノ上 五枝
古田ノウリ

形の整った美しい文字を書
くためには、反復練習を続
けることです。 塩川 泰生

形の整った美しい文字を書
くためには、反復練習を続
けることです。 昭澤 八初
青木未空

波の力を利用して、電気
を起す研究が進めら
れています。 可児 四二
服部 采飛

ことしもアジサイ
の花がきれいにさ
きました。

書の構造に於ける点や線や
面けあり方ハ書として重大な決
め手となるものである。 古坂研
幸彦

夏の訪れを告げるホトトギス。
漢字では、時鳥、不如帰、子規
などが当てられる。 土筆 太郎 中七段
四條 陽菜

夏の訪れを告げるホトトギス。
漢字では、時鳥、不如帰、子規
などが当てられる。 大田 中二
藤田 陽菜

形の整った美しい文字を書
くためには、反復練習を続
けることです。 神澤 安那

形の整った美しい文字を書
くためには、反復練習を続
けることです。 龍光 五五 中四
杉山 虹七

波の力を利用して、電気
を起す研究が進めら
れています。 手塚 四一 中六
河嶋 里奈

ことしもアジサイ
の花がきれいにさ
きました。

毎年六月、三鷹の禅林寺で太宰
治を偲んで、多くの子らが訪れ、桜
桃忌が催される。 華雪 文都
松井 佑菜

夏の訪れを告げるホトトギス。
漢字では、時鳥、不如帰、子規
などが当てられる。 新城 中一
菅谷 優羽

形の整った美しい文字を書
くためには、反復練習を続
けることです。 原 八六 中四
齊藤 愛莉

形の整った美しい文字を書
くためには、反復練習を続
けることです。 山愛 六六 初
窪田 紀子 花

波の力を利用して、電気
を起す研究が進めら
れています。 毛 止 三子 初
北川 遼太

波の力を利用して、電気
を起す研究が進めら
れています。 安室 四一 中四
野池 良生

ことしもアジサイ
の花がきれいにさ
きました。

夏の訪れを告げるホトトギス。
漢字では、時鳥、不如帰、子規
などが当てられる。 有象 中二
寺井 愛

夏の訪れを告げるホトトギス。
漢字では、時鳥、不如帰、子規
などが当てられる。 湊 中二 漢之良
藤森 晴珠

形の整った美しい文字を書
くためには、反復練習を続
けることです。 岡 大阪 中七
原 実花

形の整った美しい文字を書
くためには、反復練習を続
けることです。 球光 三三 中四
窪田 優月

〔硬筆〕

- 【一般】 春玖 横山 京節 若竹 大阪 原 実花
- 巍山 土肥野清茜 山愛 富田 紀々花
- 華雪 松井 佑菜 照澤 窪田 紀々花
- 【中学】 有象 寺井 愛 皓花 杉山 虹七
- 霞墨 藤崎みのり 光丘 北川 遼太
- 土筆 四條 陽菜 可児 服部 来飛
- 新城 賞谷 優羽 華雪 河嶋 里奈
- 湊 藤森 晴珠 虹友 菊池 真生
- 龍文 古内うらら 蓮田 二一
- 大田 藤田 陽菜 玄樸 原島 朱璃
- 【小五・六】 小五 六 陽菜 一葉 伊藤 大葵
- 凛心 齊藤 愛莉

愛心・西・上尾・朝日・飯田・飯山・倚雲社・一絵・伊奈・宇土・映心・往郷・大泉・大阪・大田

Main table containing names and numbers in a grid format, organized by school level and department. Includes columns for elementary school (小・中学校の部) and various departments like '絵画' (Art) and '音楽' (Music).

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Main table containing names, grades, and affiliations. Columns include names like 岡原, 高橋, 山崎, etc., and grades like 四段, 三段, etc. Includes sub-sections for 華雪支部, 霞墨支部, 花蓮会支部, 希望支部, 硯扇支部, and 皓花支部.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Main table containing names and their corresponding grades/levels across various categories.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with multiple columns and rows containing names, grades, and symbols. The table is organized into several sections, likely representing different departments or groups. Each entry typically includes a name, a grade level (e.g., 準二, 初段), and a symbol (e.g., ☆, ▲, ▼). The names are often followed by a surname in parentheses. The table is dense and contains a large amount of text.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

柏心・蓮田・葉月・晴美・半田・光ヶ丘・聖富貴・富士見・船橋・書文会・芙蓉第五・平成・宝春・厚風会・星・前原・松戸・池水・水代・美苑・みみ野・峰・宮川・宮地・雅・御代田・名東・めぐみ・杜の会・八潮

Main table containing names and their corresponding grades/positions. The table is organized into columns and rows, with names written in kanji and their associated grades or positions indicated by numbers and symbols.

Table with 10 columns and 15 rows of names and grades. Includes a '注意' (Notice) section at the bottom with 3 points regarding barcode labels and registration names.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

第36回読売書法展 一本格の輝き

- 東京展** 《第1会場》国立新美術館（東京・六本木）※27日(火)休館
《第2会場》東京都美術館(東京・上野)
【区分】茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・富山・石川・山梨・長野・静岡の各都県と海外在住者
8月23日(金)～9月1日(日)
8月23日(金)～8月29日(日)
- 関西展** 《会場》京都市勧業館「みやこめっせ」(京都市・岡崎公園)
【区分】福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の各府県
9月11日(水)～15日(日)
- 中国展** 《会場》広島県立ふくやま産業交流館「ビッグ・ローズ」(福山市御幸町)
【区分】鳥取・島根・岡山・広島の各県
9月27日(金)～29日(日)
- 四国展** 《会場》サンメッセ香川（高松市林町）
【区分】徳島・香川・愛媛・高知の各県
10月18日(金)～20日(日)
- 東北展** 《第1会場》山形美術館（山形市大手町）
《第2会場》山形県芸文美術館（山形市七日町）
【区分】青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島の各県
10月30日(水)～11月3日(日・祝)
- 北海道展** 《会場》札幌市民ギャラリー（札幌市中央区）
【区分】北海道
11月20日(水)～24日(日)
- 中部展** 《第1会場》愛知県美術館ギャラリー（名古屋市・栄）
《第2会場》愛知県産業労働センター「ウインクあいち」(名古屋市・名駅)
【区分】岐阜・愛知・三重の各県
11月27日(水)～12月1日(日)
- 九州展** 《会場》福岡国際センター（福岡市博多区）
【区分】山口・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の各県
12月6(金)～8日(日)

令和元年八月一日発行（毎月一回一日）第六十七巻 第八号 通巻七六五号

http://www.shoshou.com

定価六〇〇円 送料八二円

書象会便り

◆第36回読売書法展に三七〇名出品

標記展の最終選考会が去る七月七日(日)武蔵野スイングホールで開催され、役員・公募合わせて三七〇名の力作が選出され、出品手続を完了いたしました。

計	公 募	会 友	評 議 員	幹 事	理 事	参 与	常 任 理 事	漢 字	調 和 体	仮 名	合 計
295	154	45	27	35	30	1	3				
75	37	14	8	10	6						
0											
370	191	59	35	45	36	1	3				

◆改組新第6回日展

◆出品申込締切 七月二十六日(金)

◆添削会

- 第一回 七月二十一日(日) 中野「栢美」
- 第二回 八月十一日(日) 武蔵野スイングホール
- 第三回 八月二十五日(日) 武蔵野公会堂
- 第四回 ◆夏季合宿錬成会 福島県磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」
- 第五回 九月八日(日) 武蔵野公会堂へ出品表提出

◆最終選考会 九月十六日(日・祝) 武蔵野スイングホール

氏名	発行人 (有) 書象
	代表 上 條 節 夫
	東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三二六
	郵便番号 180-0001 電話 〇四二(五三)九七四三
	振替口座 〇〇一九〇一七二二五六九一
	振替名義 (有) 書象
	印刷所 株式会社 リンクス